

対話AIで富士山学ぼう

GW三島 リリース 魅力や環境問題回答

3カ国語対応

三島市のNPO法人グラウンドワーク（GW）三島は、富士山が世界文化遺産に登録されて13年が経過したことを記念し、新しい対話型AI（人工知能）情報提供サービス「AI富士山学」をリリースした。富士山の自然や歴史、文化、環境、地質、観光、防災、地域づくりなどについて、自由に質問しながら学ぶことができる。

（伊豆日日新聞 土屋春菜）

20年ほど前に富士山 界文化遺産登録にも尽の「光と影」を学ぶ「富 力した農学博士の渡辺 土山学」を提唱し、世 豊博同NPO専務理事

ターゲットには富士山が好きな台湾人も見込み、日本語、中国語、英語を用意した。ビューポイントや5合目に行く方法、噴火の可能性など魅力、価値、不明点について質問すると、それぞれの言語で分かりやすく回答する。富士山学協会の代表も務める渡辺専務理事は「富士山の『光』っ

ターゲッという素晴らしい魅力と、一見きれいだが見る裏に隠された環境問題などの『影』。こうした問題も併せて富士山の姿なので知ってもらいたい」と話す。

10問まで無料。それ以上は月2200円（税込み）で何問でも質問できる。GW三島のホームページにQRコードを掲載している。問い合わせはGW三島（電0555）983-0136）へ。



「AI富士山学」で質問した回答を示す渡辺さん＝三島市内